



先日、53年ぶりに最上川の氾濫が起き、避難所等で、多くの方たちが、苦痛な日々を過ごしております。災害は突然起き普段の生活が一変し、元の生活へ戻す努力や労力、精神力は並大抵のことではないと実感しております。被災された方々、一晩不安な気持ちで朝を迎えた方達におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。これからが夏本番！体調管理を怠らず、**遠い親戚より近くの他人！！**どうぞ声かけ合いながら一日でも早く、住み馴れた町で元の生活に戻られることを祈っております。

清掃中のケガ予防の服装



水害後に起きやすい主な感染症

- ・破傷風・急性呼吸器感染症・ツツガムシ病
- ・レジオネラやレプトスピラ症
(ネズミや排泄物で汚染された土壌との接触で起きる)
- ・急性胃腸炎や下痢
(ストレスや不衛生な環境から発症)
- ・ノロウイルス感染症・食中毒
- ・インフルエンザ・コロナウイルス感染症
- ・外傷性ウイルス感染

いずれも、時間を決めて体を休める・人ごみを避ける
換気を良くする・体や生活環境を清潔に保つ・手洗い
・手指消毒・うがい等 常の生活衛生習慣を確実に
実行する事で防げます。
出来れば、ケガなどを含めれば、小さいお子さんは
現場から離れた方が良いのかもしれない

<コロナ禍のなかで>

夏の感染症として、子供に多い「手足口病・ヘルパンギーナ」が今年は、発生率が、2019年のおよそ100分の1になるなど、夏に流行する感染症の患者がこの10年で最も少なくなっていることがわかった。原因は、コロナ禍の中での、三密・手洗い・手指消毒の実行からと言われています。やはり平日頃の感染対策が、健康でいる秘訣なのかもしてませんね。



6月・7月の病児室は???

春先は、コロナウイルス感染症が、発生した為、病児保育は、やむを得ず休止状態でしたが、この2ヶ月で、4名（発熱・喘息・体調不良・吐気）のお友達が利用してくださっています。始めてご利用のお子さんは、入れ替わり立ち寄る職員に一生懸命お愛嬌を振る舞っています。病児保育で子育て支援！今年度の登録者は29名になっています。家族様が安心して仕事と子育ての両立が出来ますように、これからも専門性を高めていきたいと思っております。病児保育の手続きにつきましては、当団体ホームページへ掲示されていますのでご覧ください。

